

—ダラスの暗殺事件から60年—

スピリット
ケネディ精神から生まれた
『グッドラック』

文/月刊グッドラックとやま発行人 中村孝一



1964年1月19日、前年11月に凶弾に倒れた故ジョン・F・ケネディ大統領を追悼するミサがボストンの聖十字架大聖堂で執り行われ、そのミサの式次第の一環としてラインズドルフ指揮ボストン交響楽団によって、モーツァルトの「レクイエム」が演奏された。

ケネディ精神を引き継ぎたいと、創刊を決意

今年の11月23日(アメリカ時間では11月22日)は、第35代アメリカ大統領のジョン・F・ケネディが1963年、アメリカ・ダラスで暗殺されてから60年目となるメモリアルデーです。ケネディの暗殺が「グッドラック・マガジン」を誕生させる引き金になったのだとしたら、歴史とはなんと不思議で皮肉なものなのでしょうか。

アメリカの作家・ヘミングウェイは、歴史の教訓を、次のように詩に読んでいます。

○グッドラック編集方針○

「グッドラックは、われわれに心の糧を与え、われわれを勇気づける記事を取り上げ、高い理想と、希望と、向上心を絶えず持ち続けるよう、読者を激励する」

「この世は勇気をもたらした人を殺す。

だが、その後、打ちのめされた場所でも多くの者が強くなる」と。

1977

年に『グッドラック』を創刊することになる

私は、この時19歳。1961年、ケネディが大統領就任演説で、「あなたの国が、あなたに何をしてく



1963年6月10日、アメリカン大学卒業式で演説するケネディ。この演説は「平和の戦略」と題され、世界に核実験停止を呼びかけたものとして名高い。(ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館 所蔵・提供)

れるかを聞いたもうな。あなたが、あなたの国に何をなし得るかを聞いたまえ」と、世界に呼びかけた時は、まだ16歳の若者でした。

このケネディの呼びかけに、私は雑誌を創刊することで応えたいと考えたのです。

ケネディは、なすべきことをたくさん残していたため、どんな宗教も哲学も、彼の早すぎた死を正



◆ジョン・F・ケネディ 略歴◆

1917年5月29日 アメリカ・マサチューセッツ州にて生まれる。

1940年 ハーバード大学卒業

1941年 海軍に入隊、魚雷艇の船長に。

1946年 ポストン第11区から下院議員選挙出馬・当選

1952年 マサチューセッツ州から上院議員選挙出馬・当選

1953年 ジャクリーヌ・ブービエと結婚

1954年 脊柱手術を受ける。

1956年 『勇気ある人々』出版

1960年 大統領選挙出馬声明

1961年1月 大統領に就任。43歳

1962年 キューバ危機、核戦争回避

1963年8月 部分的核実験停止条約調印
人種差別反対ワシントン大行進

11月23日(現地時間：11月22日)
テキサス州ダラスにて暗殺される。
46歳

当化することはできないでしょう。では、その死は、何かの目的に役立ったのでしょうか。そう、日本の一人の若者に、ケネディ精神を引き継がせるために、『グッドラックマガジン』を創刊するといふ使命を委ねたのでした。

ケネディは、もし大統領領になつていなかつたら何になつていたかとの問いに、「新聞社か雑誌社の発行人として、自分の哲学や思想

を伝えていきたい」と述べています。事実、彼は2冊の本、『イギリスはなぜ眠つたか?』と『勇気ある人々』を書き、自分の考えを書き表しています。また、聖パウロ(新約聖書の著者の一人)も、もし今の世に生きていたらジャーナリストになつたらうと、イタリア・ベネチアから日本に宣教に来た神父、バルバロ氏は語っています。1977年、33歳になつた私

は、ケネディ精神を盛り込んだ雑誌を創刊することを決意。そして、ケネディが掲げた理想のたいまつを引き継ぐべく、グッドラックの編集方針を決定しました。

「グッドラックの編集方針」は、ケネディの言葉を借りて、人間のあるべき姿(生き方、進むべき道)を指し示したものです。

■(グッドラック編集方針より)

「われわれに心の糧を与えろ」

……「心の糧」
人間として最も大切な心を、ケネディは持っていました。キューバ危機でソ連と対決し、世界が核戦争の恐怖におののいた時、それを救つたのは彼の人類愛であり、良心でした。

「われわれはすべて同じ地球に住んでおり、みな同じ空気を吸っている。また、みな子孫の将来のことを考えている。そして、われ

われはみな同じ人間なのである」と、ケネディは『平和の戦略』の中で自らの哲学を述べています。

ケネディは、キューバ空爆を主張する軍部に対し海上封鎖を決断、核戦争を回避したのでした。

「大海よりも壮大なものは、大空である。大空よりもさらに壮大なものは、人の心である」と、ヴィクトル・ユーゴーも言っています。

グッドラックは人間にとつて最も大切な心を育てるために、この世に誕生したのです。それは、ケネディが暗殺されてから14年後のことでした。グッドラックはこれからも、われわれに“心の糧”を与え続けます。

“われわれを勇気づける記事を取り上げ”……「勇気」

ケネディがわれわれに求める大きな資質、それは勇気です。彼は

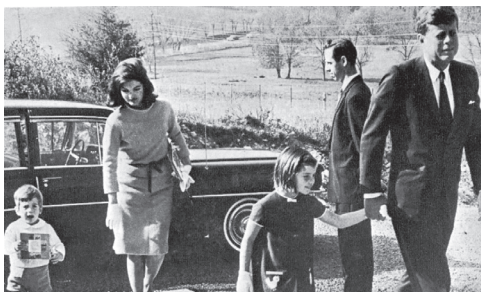
1963年10月7日、部分的核実験禁止条約に署名するケネディ。
(ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館 所蔵・提供)



『勇気ある人々』に書きました。

「人間はやらねばならないことをする。自分にどんな危険が降りかかるうとも。これこそ、人間のあらゆる倫理の基盤である」と。

ケネディ大統領は、人種差別の嵐が吹き荒れる中、「あらゆる市民が自由になるまで、アメリカは自由な国とは言えない」と国民に訴



当時、全世界から注目を集めたケネディ一家。
(『ケネディとともに12年』エベリン・リンカーン著
宮川毅 倉田保雄訳 恒文社より)

えました。1963年、ワシントンでは大デモが起こりました。人種差別撤廃を訴え、25万人がリンカーン記念堂の前に集まったのです。ケネディは、弟のロバート・ケネディ司法長官と共に、キング牧師らを全面的に支援しました。

そのため、南部の人々の反感を買い、「殺すぞ」という脅迫がたく





さん届きました。しかし、ケネディは「すべての人間は平等に造られている」との強い信念のもと、闘うことをやめませんでした。そして、遊説のために赴いたダラスで暗殺されてしまったのです。

しかし、暗殺者は彼の掲げた「理想」までも殺すことはできなかつたのです。その後、人種差別を撤廃する公民権法案が成立。ついにケネディの「勇気ある行動」が、なんと、当時は考えることさえも不可能と思われた、アメリカ史上初の黒人大統領誕生へとつながったからです。

グッドラックは、勇気を持って生きた人々を取り上げることで、われわれの進

むべき道を照らします。人生のどのような領域であろうとも、われわれは勇気の挑戦に遭遇しますが、グッドラックは、われわれが進むべき道を指し示してくれるでしょう。

……「高い理想を」

ケネディは、いつも高い理想を掲げていました。米ソ冷戦時代、アメリカ人の多くは、共産主義は「悪玉」であり、地上から抹殺しなければならぬ、と考えていました。しかし、ケネディは主義主張が違っても、お互いに理解し合うことができれば、共存共栄して平和に暮らしていけること、それは国家間だけではなく、家族間でも、個人と個人の間でも、同じように平和に暮らしていけることを強調しました。

ケネディは、「私は本当の平和、すなわち地上の生活を生き甲斐あるものにするような平和、人と国が成長し、希望を持ち、子孫のためによりよい生活を築くことができるような平和、単にアメリカ人のための平和ではなく、全人類のための平和、単にわれわれの時代だけの平和ではなく、永遠の平和について語るのである」と、世界の人人々に訴えました。

グッドラックもまた、「理想を高く掲げ、ひるむことなく前進していきます」。

ロングフェローも言っています。「理想は大海に浮かぶ星のようなものだ。けつして、手にはつかめない。しかし、それはわれわれを導いてくれる」と。

……「希望と」

ケネディ大統領ほど、国民に、

また世界中の人々に希望をもたらしたい人はいないでしょう。

「水平線の彼方には、嵐があることを知っている。しかし、われわれは恐れをあとに、希望を持って舵を取っていく」(1961年1月20日 アメリカ大統領就任演説より)

核兵器の登場で、人類を何回も繰り返して滅亡させるに十分な核戦力を持つに至った時代に、これ以上の核競争を続けることは無意味であると、ソ連のフルシチョフ首相に呼びかけ、ついに核実験を禁止する条約を結んだのでした。

ケネディは、「希望に満ちて諸君に話しかける」と語りかけました。

「できることなら、戦争の暗い影から抜け出して、平和の道を探し求めようではないか。そして、その道が千里、またはそれ以上であつたとしても、この時代のわれ

われが、その第一歩を踏み出したことを、歴史に記録させようではないか」と、全世界に呼びかけたのでした。

グッドラックは、読者に「希望」を持つて歩むことの大切さを呼びかけ続けます。

向上心を絶えず持ち続けるよう、読者を激励する、

……「向上心」

ケネディの性質のうち、目立った点を一つ上げるならば、絶えざる成長という性質でした。ケネディは、60年後のわれわれに呼び

太陽光発電と蓄電池のご相談は 実績20年の

有限会社 **イシグロテクニカル**

代表取締役 石黒千蔵

富山市太田北区105-24 ☎076-423-3672 FAX.076-423-3274

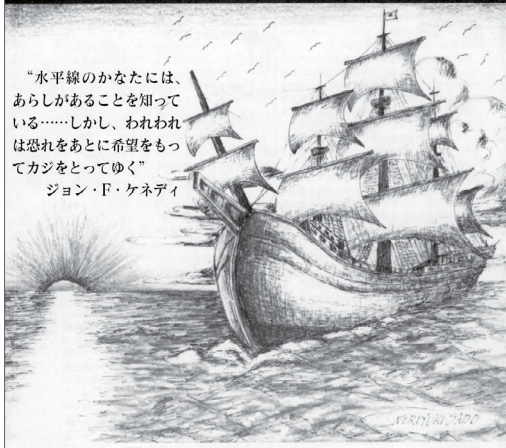
1977.11 創刊号

グッドラック

マガジン

“水平線のかなたには、
あらしがあることを知っている……しかし、われわれは恐れをあとに希望をもってカジをとってゆく”

ジョン・F・ケネディ



家族の皆さんに おもしろく読みやすい 1冊 ¥250、1年 ¥3,000

▲1977(昭和52)年11月に発刊された『グッドラックマガジン』創刊号。朝日が登る夜明けの海に船出する「グッドラック丸」が描かれている。

かけています。

「専制、貧困、病気、戦争など、人類共通の敵に対する闘いに参加するつもりはないか？ この努力にそぐわれわれのエネルギー、信念、献身は、わが国とそれに仕える、すべての人々を照らし——また、その火から発する光は、本当に世界

を照らすことができるだろう」

人間は向上心を持ち続ける限り、成長し続けることができるのです。グッドラックは誌面を通して、われわれを、そして、読者の皆さんを激励し続けます。ケネディの言葉は、まさにわれわれの編集方針そのものだと見えるからです。

「安らかな良心を、われわれの唯一の確かな報酬とし、歴史を保持つてわれわれの行ないの究極の審判となし、神の恵みと助けを求めるが、この地上では神のみわざは、真にわれわれ自身の営みとしてなされねばならないことをわきまえつつ、わが愛する国土を導いて、前進しようではないか」

ケネディ暗殺から60年。彼の掲げた理想は、人類の遺産として輝き続けるでしょう。「グッドラック丸」は、彼の精神をマストに掲げ、これからも前進を続けます。私たちの編集方針を理解し、支援してください。読者の皆様、そしてオフィシャル・スポンサーの皆様の支援を得て、また新たな航海に出発いたします。今後とも、お力添えを賜りますよう、よろしくお願いたします。

⑥